

小俣まちづくり計画

2019 年改訂版

目 次

この計画のこと	1頁
私たちのまち小俣	1頁
こんな小俣にしたいね	2頁
(まちづくりの基本理念)	2頁
(まちづくりの基本目標)	3頁
こんなことに取り組もまいか	4頁
安心して住めるまちづくりのために	4頁
健康で元気なまちづくりのために	5頁
住んでいる人にやさしいまちづくりのために	5頁
住みやすい美しいまちづくりのために	5頁
活力を未来につなぐまちづくりのために	6頁
こんなふうに取り組もまいか	6頁
小俣まちづくり計画体系図	8頁

小俣まちづくり協議会

この計画のこと

～ みんなでまちづくりに取り組むための指針 ～

この計画は、歴史あるコミュニティとしての小侯のまちづくりに、住民みんなで取り組むためにつくりました。これからの小侯のまちづくりの方向を地域住民で共有するために、市民の幅広い参画をいただきながら、2010年5月に策定し、2019年に時の経過を踏まえて点検し、一部修正したものです。

まちづくりには、住民自らが取り組まなければならない身近な課題も多く、行政任せにせず私たち自身で取り組まなければなりません。私たちは、この計画を拠り所として、力を合わせてまちづくりを進めていきます。

私たちのまち小侯

～ コンパクトで住みやすいまち ～

私たちのまち小侯は、東には宮川、中央には外城田川が流れ、西には大仏山の小丘陵、そしてその間に豊かな平地が広がる、東西4キロメートル、南北5キロメートル、総面積は11.56平方キロメートルの地域に約2万人が暮らすコンパクトなまちです。

小侯の地は、原始の時代から住みやすいところだったようです。後期旧石器時代のママ田遺跡などからの出土品は、小侯が1万年以上前から人びとの暮らしの場であったことを示しています。

古代から中世には斎王の離宮院が小侯におかれ、伊勢神宮と深い関わりをもつて発展してきました。今でも、離宮院の森が私たちのまちに潤いを与えています。

まちの真ん中に参宮街道が通じており、小侯は街道最後の宿場町でした。宮川の「桜の渡し」があつて、江戸時代には、たくさんの参宮客で大いに賑わいました。今も残る宿場町としてのたたずまいが、私たちのまちに風格を与えています。

明治になって鉄道が山田駅まで開通すると宿場町としての賑わいを失いましたが、大正になると陸軍飛行学校（現在は陸上自衛隊の航空学校となっています）や紡績会社が立地してまちを活気づけました。

現在の小侯は、田園地帯のなかに住宅地が広がり、「田園都市」を形づくっています。汗谷川、外城田川、相合川などの河川は、カワセミ、カモなどの野鳥が生息するなど豊かな自然環境を維持しています。

また、大仏山から眺めた小侯のまちは、田園風景が広がり、美しく豊かな景観

を保っています。

特産品としては、昔から名物として親しまれてきたへんば餅や伊勢たくわんのほか、近年では、いちごやトマト、メロンなどの農産物も有名になっています。

鉄道の駅がJR（宮川駅）と近鉄（明野駅、小俣駅）合わせて3つあり、国道23号と県道鳥羽松阪線（日本で初めての有料道路「参宮道路」です）という2本の幹線道路に挟まれているなど大変便利な交通条件を備えています。

離宮院公園と汁谷川の遊歩道、大仏山公園などの住民の憩いの場や、図書館、体育館、スポーツ公園、学校などの公共施設、また商業施設や医療機関なども整っていて、日常生活に便利なまちでもあります。

住民の人情味は厚く、互いに親しみ、助け合っています。人びとの住民意識は高く、自治会や老人会その他の団体が活発に活動していて、住みやすいまちにするために重要な役割を果たしています。さまざまなスポーツや文化に親しむ住民の数も多く、サッカー、野球、バドミントンなどのスポーツ少年団や中学校でのクラブ活動も盛んで、県内でもいち早く地域総合型スポーツクラブができました。

また、「おばたまつり」も、地元の夏まつりとして定着し、すでに20回以上を数えています。市の文化財に指定されているかんこ踊りや御頭神事をはじめ、住民が協力してお祭りを盛り上げてきました

このように自然や歴史文化に恵まれながら、大変住みやすいまちであることが評価されて、伊勢市の中心部や周辺の町から移住してくる住民も多く、少子高齢化といわれる時代でも人口は微増しており、これからも住みやすい環境を維持していかなければなりません。

こんな小俣にしたいね

～ まちづくりの基本理念と基本目標 ～

（まちづくりの基本理念）

私たちのまち小俣は、とても住みやすいまちです。小俣の自然条件と先人たちの営みがこの暮らしやすいまちをつくってきたのですが、みんなの力を合わせればもっと良いまちにできるはずです。

美しい自然環境はこれからも維持していかなければなりませんし、これまでつちかってきた歴史や伝統は大切にするとともに新しいものを付け加えながら、後世に伝えていきたいものです。また、互いに親しみ、助け合って暮らしていくことや、力を合わせて元気に活動していくことも大切です。

豊かな自然空間のなかに都市機能が整備され、歩いて楽しくコンパクトで誰

もが健やかに安心して暮らせる住みやすいまちでありたいと思います。

このような願いと想いを込めて、まちづくりの基本理念を

この自然と歴史、住みやすい小俣のまちをいつまでも。

～ みんなでつくる、みんなのまち ～

とします。

(まちづくりの基本目標)

小俣を基本理念に掲げたようなまちにしていくためには、これまで取り組んできた良いことはこれからも残していかなければなりません。また、今直面している課題や、これからも出てくるであろうさまざまな問題を解決していかなければなりません。

基本理念に掲げたまちづくりのために、その基本的な目標を次のように定めます。

安心して住めるまち

最近では、不審者を見かけたり、狭い道を車にひやひやしながら歩いたり、日常生活で不安を感じるが多くなりました。大地震などの災害に日頃から備えておくことも重要です。住みやすいまちにするための基本条件として、まず「安心して住めるまち」を目指します。

健康で元気なまち

みんなが健康で元気でなければ、住みやすいまちとはいえません。お互いに気をつけあいながら、健康体操や健康ウォーキングなどみんなで健康づくりに取り組みます。

また、精神面からも文化・レクリエーション活動に取り組み、だれもが元気でスポーツ文化に親しむなど「健康で元気なまち」を目指します。

住んでいる人にやさしいまち

私たちのまちでも、少子高齢化の影響を受けていて、地区によっては活力の低下が心配されています。高齢になっても、障がいがあっても、社会の一員として認められ活動できるまちでありたいものです。

また、保育所、学童保育などの整備も進んで、現在でも子育てのしやすいまちですが、これからも子ども達の声がいきいきと響くまちでありたいものです。いつもお互いを気に掛けあい、助け合って暮らせる「住んでいる人にやさしい

まち」を目指します。

住みやすい美しいまち

住みやすいまちは、気持ちよく住める清潔で美しいまちです。そのためには、住民一人ひとりがまちを清潔に保つよう心がけるとともに、ごみの減量化やリサイクルに取り組んだり、河川、公園などの清掃活動を行っていく必要があります。みんなの力を合わせて「住みやすい美しいまち」を目指します。

活力を未来につなぐまち

私たちのまちは、いつまでも住みやすいまちであってほしいものです。そのためには、次世代を担う青少年に小侯のよさを伝えていく努力が必要です。また、大仏山や離宮院、街道など小侯の大切なものを、案内図などで広く共有するとともに手を入れながら次世代に伝えていくことも必要です。さらには、地場の産業や商店には、活気があって、住民生活を支えていくことが重要です。まちの未来に夢をもちながら、みんなが仲良く助け合ってまちの活力を次の世代に引き継いでいく「活力を未来につなぐまち」を目指します。

こんなことに取り組もまいか ～ まちづくりの活動方針 ～

私たちは、次の活動方針を基本としてまちづくりに取り組みます。

○安心して住めるまちづくりのために

防災活動

自主防災組織や防災ボランティアの活動を中心に、いざというときに自らの身を守りお互いに助け合えるように、災害時の要援護者の支援の用意をしたり、飲料水や食糧を備蓄するなど、日頃の備えをします。

交通安全運動

交通事故を減らすために、歩行者を見つけたら速度を落とすことをドライバーに呼びかける「歩行者優先運転」の運動や、歩行者側は夜間は反射材を身につける運動など、交通安全運動を実施します。また、安全に歩けるように、車の通行が多い道路で歩道未整備の箇所などについては、当局に歩道整備を働きかけます。

防犯パトロールや子どもの見守り活動

犯罪のないまちを目指して防犯パトロールや防犯啓発活動をするのととも、子どもの安全・安心のために登下校の見守り活動などに取り組みます。

○健康で元気なまちづくりのために

文化・レクリエーション・スポーツ活動

日頃からスポーツや文化に親しむことができるように、文化・レクリエーション・スポーツ活動を展開します。

健康づくり運動

いつまでも元気でいるためには、歩く習慣をつけることが大切です。ウォーキング・コースを設定して歩け歩け運動に取り組むとともに、夏季には朝のラジオ体操会を開くなど健康づくり運動に取り組めます。

食育推進運動

私たちの食生活は、バランスのとれた「日本型食生活」であるとされてきましたが、近年では栄養バランスの崩れや朝食抜き、さらには孤食などといわれる食事状況の悪化などがみられます。健康は健全な食生活から始まります。健全な食習慣を普及するために、食育推進運動に取り組めます。

○住んでいる人にやさしいまちづくりのために

子育て支援

核家族化が進むとともに男女が共に働く時代を迎えて、子育てに不安を感じたり、思うように子育ての時間がとれない家庭も多くなっています。子育てを地域全体で支援します。

独居高齢者、高齢者世帯の支援

高齢者がいきいきと活動できる場づくりなど、独居高齢者や高齢者世帯の支援に取り組めます。

世代間交流

人と人とのつながりは、「あいさつ」から始まります。「住んでいる人にやさしいまち」の基本として「あいさつ運動」に取り組めます。

障がいをもったり、高齢になったりしても、お互いに親しみ、助け合っ
て、誰もがいきいきと暮らせるよう、交流の場づくりや巡回相談などに取り組めます。

○住みやすい美しいまちづくりのために

ごみのない美しいまちづくり

みんなが気を付けていても、心ない人が飲料容器を捨てたりします。また、公園などを良好な状態に保つには清掃などの活動が必要です。町内一斉清掃や河川敷や公園の清掃活動などに取り組めます。

ごみ減量、リサイクル運動

私たちのまちをきれいで美しくするために、ごみの集積所の維持管理や

分別ルールの啓発などに取り組むとともに、ごみ減量化の運動や、資源ゴミの回収などに取り組めます。

住民の美化意識の向上運動

美しく住みやすいまちにするのは、一人ひとりの心がけです。美しいまちの象徴として「市民花壇」を整備するとともに、啓発ポスターや看板を立てるなど、住民の美化意識の向上を図ります。

○活力を未来につなぐまちづくりのために

地域イベントの開催

大仏山や離宮院、街道など小俣の大切なものを次世代に伝えていくため、伊勢街道に案内板を設置したり案内図をつくるなどによって広く共有するとともに、大仏山公園や離宮院に横輪桜や枝垂れ梅を植えるなど手を入れながら大切に守っていきます。さらには、「離宮院梅まつり」などのイベントを開催するなどして、住民みんなが「小俣の宝」を共有していきます。

まちづくりの組織づくりとリーダーの養成

みんなが仲良く助け合うまちを目指して、組織づくり、人づくりに取り組み、まちづくりの各分野で、次世代のリーダー養成に努めます。

青少年健全育成活動

男女が共に働く時代を迎えて親が忙しくなり、親子会やPTAの活動には限界がみえてきています。地域の将来を支える子ども達や青少年は、地域全体で健全に育成します。

郷土愛の醸成

小俣の良さを伝えていくために、「子ども地元学」などに取り組み、郷土への愛着を深めます。

公共施設の有効活用

公共施設は比較的整っていますので、地域で有効に活用できるようにします。

まちの元気づくり

地場の産業が元気で住民生活を支えることができるように、地産地消の運動や商店の活性化、特産品PRのイベントなど活性化に協力します。

こんなふうに取り組もまいか

～ この計画の進め方 ～

この計画は、小俣のまちに住むみんなで「まちづくり」に取り組んでいくための計画です。

以前は家族で助け合っていた介護や育児なども社会的に対応しなければならない課題になっています。このような課題は、市全体で取り組むよりも、身近な地域で取り組む方がうまくいくのではないのでしょうか。また、行政が画一的なやり方で取り組むよりも、住民が協力しあって、それぞれにあったやり方で取り組む方がうまくいくと思います。

住民自らが取り組まなければならない課題にどのようなものがあるか、どのように取り組んだらよいのかを考えて作りました。

計画に関係あることは、一人ひとりの住民、さまざまな団体にはできるだけ知ってもらうことが重要です。方法としては、まちづくり協議会のホームページや広報紙「小俣まちづくり便り」等の手段がありますが、なかでも住民に直接関わりをもっている自治会で構成する小俣町自治区連絡協議会が、まちづくり協議会の活動を円滑に進めるにあたり中心的な役割を果たすことが重要です。

また、商工会、社会福祉協議会等他の団体が力を合わせるように、まちづくり協議会が全体をまとめる潤滑油になります。

私たちのまちですから、行政任せにしないで私たち自らがまちづくりに取り組むのが基本ですが、一方で、伊勢市全体で考えなければならないことや、行政で解決しなければならないことも多くあります。関係の団体や行政と協力しあって進めるとともに、まちづくり協議会として伊勢市当局への要望をとりまとめてその実施に向けて働きかけます。

小俣まちづくり計画体系図

